

**CASBEE京都-新築(2015年版)**  
**京都市美術館再整備工事**

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
3.2 グレア対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
4.2 換気								
4.3 運用管理								
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1.2 心理性・快適性								
1.3 維持管理								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震								
2.2 部品・部材の耐用年数								

2.4 信頼性				熱源は、モジュール式、台数制御、バックアップ配管を設置 B1階北便所を災害時の便所とし、職員分を確保	4.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				5.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			機器S、配管、ダクトをAとしている。	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり					4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり			美術館の最低階高さを3.9m以上としている。	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	部屋割りが大きく、自由度が高い。	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	評価する取り組みのとおり。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	評価する取り組みのとおり。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	評価する取り組みのとおり。	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)	評価する取り組みのとおり。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	2.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				開口部を少なくすることにより、熱負荷抑制。	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	ハイサイドライトを備える。	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 1.09 住宅(専有部) -	1.0	0.50	-	-	1.0
				集合住宅以外の評価(3a.3b)	1.0	1.00	-	-	
				集合住宅の評価(3c)	-	-	-	-	
4 効率的運用					4.0	0.20	-	-	4.0
					4.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				BEMS設備を設置、エネルギー消費量結果を分析可能	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				エネルギー消費量の目標値を計算している。	4.0	0.50	-	-	
					3.0	-	-	-	
					3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				大便器、小便器共節水型利用、水栓は自動水栓	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1		●自然	A(全国版準用)	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
2				雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					4.2	0.60	-	-	4.2
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	SN490、アンボンドスラブ、Head-bar定着工法の使用	4.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				既存建物(本館)を継続使用	5.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	パーク堆肥、吸音材(ソーラトーン)、ビニル床タイル(レイフラット)	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上げが容易に分別可能など。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.1	0.20	-	-	3.1
3.1 有害物質を含まない材料の使用				シーリング材、床ワックスの材料に配慮。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.3	0.70	-	-	
1				消火剤	1.0	0.33	-	-	
2				発泡剤(断熱材等)	3.0	0.33	-	-	
3				冷媒	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮					2.6	0.33	-	-	2.6
2 地域環境への配慮					3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止				熱源はすべて電気式を採用	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.5	0.25	-	-	
1				指導 314.8m3に対して、846m3を確保	4.0	0.25	-	-	
2				適切な台数の駐輪・駐車スペース、荷捌きを設置。	3.0	0.25	-	-	
3					4.0	0.25	-	-	
4					3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1					3.0	0.50	-	-	
2					-	-	-	-	
3					3.0	0.50	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.3	0.40	-	-	
1					3.0	0.70	-	-	
2					-	-	-	-	
3				第二種住居地域の規制より1時間短い時間を満たす。	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.7	0.20	-	-	
1				16項目中、10項目を満たす。	5.0	0.70	-	-	
2		●とも	B(推奨内容)	大きなガラス面に、高透過ガラスを採用。	4.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる